

道徳通信 ～第6号～

T S U N A G I

主体的・対話的で深い学び～考え議論する道徳～

体験活動を基に、よりよい生き方を探る道徳

日付・学年 10月9日(水) 4年1組

内容

道徳通信、第6号です。第5号では、若手教師の相談をいつも快く聞いてくださる坂田先生についての通信が発行されました。今回は、同じ日に授業を見せていただいた江口先生についての通信です。江口先生と言えば…!?授業はもちろんのこと、夜の部 においてもスペシャリスト かつ謙虚で笑顔のすてきな先生というのは皆さんご存じのことと思います。今回は、4年生に飛び込みで授業をしていただきました。4年生に「今日は、江口先生との授業です😊」と伝えると、毎回みんな笑顔で「やったー!」とガッツポーズ😊(担任は、ちょっと寂しいですが…笑 その気持ちはとてもわかる 笑)ただ、それだけ子供たちをまず主体にして授業を構想するのはもちろんのこと、様々な視点からアプローチしていく姿は、とても勉強になります。私も、江口先生のような授業がしたいなといつも思っているところです。(今度また、ゆっくり教えてください!)以下、授業での気づきをまとめました。お時間あれば、ご一読ください。

今回の学び

つなぎスタイルの充実 ～江口先生の問い返し術から～

今回、授業を見せて下さった先生

江口 征史郎 先生

【こんな工夫がありました👏】

- ・教材と自分 自分と他者をつなぐためのコーディネート
- ・つなぎスタイル『体験活動』を生かした授業構想
- ・子供たちが安心して話せる!傾聴する姿勢。



授業づくり部

【江口先生の授業構成の工夫】

① 教材と自分 自分と他者をつなぐためのコーディネート

主人公の自分の住む町に対する思いを、つなぎハートメーターで可視化することで、町に対する深い思いを中心発問の前にみんなで共有することができました。また、共有することで、主人公と自分を重ね「自分だったら」という中心発問に対して自分事として一人一人が真剣に考える姿が見えてきました。また、江口先生は、「そんな経験ある?」「どうしてそう思ったの?」「なるほど~!〇〇てどういうこと?教えて教えて!」などと、問い返しをたくさん行うことで、教材と自分、さらに自分と他者をつなぐコーディネートをたくさんされていました。



② つなぎスタイル『体験活動』を生かし、ねらいを明確にした授業構想

導入では、総合的な学習の時間の町散策を振り返り、さらに教材を通して考え議論することにより、町にもたくさんのよさがあることに気付いてほしいという江口先生のねらいを明確にした授業構想になっていました。つなぎスタイルの目玉『体験活動』を導入で行い、さらに終末の前に、町に住む人の町に対する思いの詰まった動画を流すことで、振り返りでは、自分の思う町のよさについて考える姿が見られました。授業者が、どんな意図をもって、授業を構想するのがとても大事だということを教えていただきました。



③ 子供たちが安心して話せる!傾聴する姿勢。

何においてもまずは、子供の思いをしっかり聞いてあげることが私たち教師にとって大事なことです。今回、授業を見せていただく中で、教師としての基本に立ち返らせていただきました。授業中も、子供たちの目線の高さにもまで腰を落とし、しっかりと目を見てうなずきながら話を聞く姿。まさに教師の鏡です。子供たちもしっかり聞いてもらえているという安心感を得られるからこそ、‘本音’で話せるのだと思いました。‘本音’で話せる道徳の授業を見せていただきました。



他にもたくさんの工夫がありましたが、ネタバレしますので…簡単に書かせていただきました。詳しくは、研究発表会後に…皆さんもご存じの通り、江口先生はICT活用にも長けていらっしゃいます。(運動会ダンス動画はすごいのです!笑) 今回の授業の中でも、かっこよくタブレット操作をされる姿。ICTの効果的な活用方法についても、今後ご指導いただけたらと思います。

今回、坂田先生・江口先生ともに、笑顔で授業される裏では、たくさんの努力をされています。当日は、授業者のお二人が胸をはって授業ができるように、チーム津奈木小一丸となってラスト1か月取り組みました。よろしくお願いします。